

紀南青少年育成交流会

2017. 12. 9 (ヨシクマ新聞より)

純粋な気持ち心に響く

紀南青少年育成交流会 中学生が「想い」発表

中学生が日ごろ思っていることなどを主張する第18回紀南青少年育成交流会が9日、紀宝町生涯学習センター「まなびの郷」で開かれ、12人の生徒が平和や人権などそれぞれの「想い」を訴えた。子どもたちの純粋な気持ちが大人たちの心に響いていた。

紀南地区青少年育成市民会議連絡協議会(岡本健弥会長)と三事こどもわかもの育成財団が主催した。司会を相野谷中2年生の岡崎美柚、2年生の岡崎美柚、岡本健弥さんが、受付で交流会を支えた生徒たち



【挨拶する門会長】



【意見を発表した中学生や司会・受付で交流会を支えた生徒たち】

人々外国人のハーフである尾崎さんは、家族の実体験から差別やいじめについて、この後も唐戸嶋「外国人でも男でも女でも差別する理由年、濱地健心(木本

中同)、森本愛美(飛鳥中同)、浦狩朋乃香(御浜中同)、鈴木克弥(新鹿中2年)、田野公大(神上中同)、山田千春(尾呂志学園中3年)、橋爪陽香理(入鹿中同)、平直人(五郷中同)、齊藤優(有馬中同)、倉石葵さん(相野谷中同)が堂々とした姿でそれぞれの思いを発表。子どもたちの純粋な思いに涙を流す聴衆の姿もいた。

また、発表後は「P H A T D A N C E S T U D I O」の子どもたちによるストリートダンスも披露され、活き活きと拍手が送られていた。



【中学生の発表に耳を傾ける来場者】



12月9日(土)に紀宝町「まなびの郷」で第18回紀南青少年育成交流会がありました。本校からは3年生の平直人くんが「助け合って、支え合って」という題で学校生活のこと、五郷地域のことを堂々と発表してくれました。



僕たちの学校は小さな学校ですが、みんな元気で生き生きと生活しています。地域の皆さんの協力で、大きな学校ではできない貴重な経験をたくさんしています。